

まちひとしごと

Vol. 50

白木建設工業株式会社
かこう
洪嘉豪さん



自然あふれるこのまちで
これからも暮らしたい

香

港北部の新界出身の洪嘉豪さんは、建設技術者として町内の白木建設工業株式会で働く。

日本のアニメが好きで、幼いころから日本を身近に感じていたという洪さん。そんな彼は、中学生のときの家族旅行がきっかけで、日本により興味を持つようになり、日本語の勉強を始めた。「旅行の楽しい思い出もあり、日本のことがもっと好きになりました。帰国してからは、学校で一年間ほど日本語の勉強をしました。が、アニメを観て日本語に慣れてきたことが勉強にも役立ち、覚えることができました」

大学では、建設土木関係の学科を専攻し、卒業後は香港で建設技術者として働いていたが、昨年3月にワーキングホリデー制度を活用して大阪府に約一年間滞在。そして今年3月、技術者を募集していた白木建設工業株式会社の求人を知り応募し、4月から同社の建設技術者として、土木工事の現場で図面作成や写真管理などを行っている。

「香港と日本では、同じ建設業でも少し違いがありますが、これまでの経験を生かすことができる仕事ができ、毎日とても充実しています。専門用語などの難しい単語は、まだわからないことが多いので、もっと日本語が上達して、仕事でも成長するのが目標です」

ここで暮らし始めて約半年が過ぎたが、休日は趣味のカメラを持つって、さまざまな場所に撮影に行く。これから倶知安で初めての冬を迎えることになるが、それも楽しみと話す。

「自然豊かなこの地域で暮らせることがうれしいです。春の桜や秋の紅葉もきれいでしたが、香港は雪が降らないので、これからの季節も楽しみです。せっかくなので暮らしているので、スキーに挑

戦してみたいです」

コロナ禍でイベントなども少なく、地域の魅力を感じることもや、地元の人たちと交流する機会が少ないのが寂しいと話す洪さん。今後は、交流の幅を広げ、地域に溶け込んでいきたいと話す。

「地域のお祭りやイベントに行ってみたいです。今年のじゃが祭りの花火も素敵でしたが、お店が並び多くの人が楽しむお祭りを早く体験したいです。ここで暮らして北海道や倶知安が好きになったので、多くの知り合いができ、ここでの生活をもっと楽しめるとうれしいです」

日本語を覚えるコツは『日本語でたくさん話すこと』だと洪さんは言う。私たちは、相手の言語がわからない場合、その人とのコミュニケーションを避けてしまう傾向にあるが、異国の地で暮らす彼らが地域に溶け込んでいくための近道は、『私たちが日本語で話しかける』ことなのだと思ふ。

※まちひとしごとは不定期連載です